

5月18日のブラジル株式市場の大幅高について

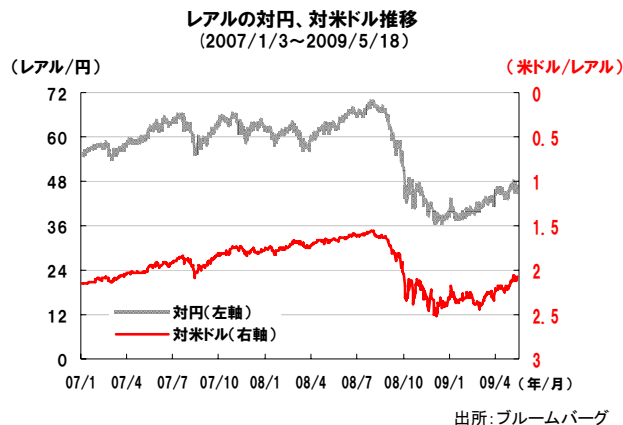
HSBC投信株式会社

- ・ 5月18日(月)のブラジル株式市場は大幅高となり、ボベスパ指数は前週末比+5.0%の51,463と5万ポイント台を回復、先週の下落分(-4.6%)を取り戻しました。
- ・ 株価上昇の主な背景としては、1)世界的な株式市場の上昇、2)原油・資源価格高、3)追加利下げ観測、が挙げられます。銘柄別には、石油大手ペトロbras、素材大手ヴァリ(両銘柄でボベスパ指数の時価総額全体の約36%を構成)の上昇が大きく寄与しました。また、鉄鋼株、砂糖株も大幅高となりました。
- ・ ここにきて、投資家のリスク回避志向が後退する中で、新興国株式市場の中では経済ファンダメンタルズが比較的良好なブラジルへの投資が見直されています。実際、ブラジル株式市場は、年初来、ボベスパ指数が+37.1%と新興国市場の中でも最もパフォーマンスの高い市場の一つとなっています。政府は大型住宅建設プロジェクトを打ち出すとともに、自動車、白物家電(冷蔵庫、洗濯機など)、一部建築資材に対する減税措置を実施し、積極的に景気対策を推進しています。ブラジル中銀も、1月、3月、4月の各々1.0%、1.5%、1.0%の利下げに加えて、6月、7月の金融政策委員会でも計0.75%程度の利下げを行うことが見込まれます。また、ここにきて一部経済指標に景気回復の兆候が表れています。世界的な金融市場の安定化、世界経済の先行きに対する悲観ムードの後退に加えて、これら国内要因がブラジル株式市場にとって追い風になるものと期待されます。

ボベスパ指数は前週末比+5.0%

週明け5月18日(月)のブラジル株式市場は大幅高となり、ボベスパ指数は前週末比+5.0%の51,463と再び5万ポイント台を回復、一日で先週の下落分(-4.6%)を取り戻しました。同日は、ボベスパ指数を構成する全65銘柄のうち63銘柄が上昇しました。中でも、石油大手ペトロbras、素材大手ヴァリ(両銘柄でボベスパ指数の時価総額全体の約36%を構成)の上昇が大きく寄与しました。一方、通貨リアルも対米ドルで前週末比+2.0%、対円で同+3.3%と上昇しています。

※末尾の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をお読みください。



## ブラジル株式市場上昇の背景

今回のブラジル株式市場上昇の主な背景としては、1)世界的な株式市場の上昇、2)原油・資源価格高、3)追加利下げ観測、の3点が挙げられます。

### 1)世界的な株式市場の上昇

18日(月)はアジア、欧州、北米地域の株式市場がほぼ全般的に上昇、特に米国株が反発し、NYダウ工業株30種平均は前週末比+2.9%となり、ブラジルの株価上昇要因の一つとなりました。ここに来て、先行きの景気に対する悲観的ムードが弱まり、投資家のリスク回避志向が後退しつつあります。米国株市場では、銀行間金利の低下、米証券大手によるバンク・オブ・アメリカの買い推奨などを背景に特に金融株が買われており、また住宅関連小売大手ローズの決算が予想を上回ったことから住宅関連株も大きく上昇しました。

### 2)原油・資源価格高

18日(月)は、原油価格が急伸しており、WTIは前週末比+4.8%のバレル59.03米ドルと約半年振りの高値をつけました。この背景としては、世界経済の回復期待に加えて、ナイジェリアの武装勢力の活動が活発化、石油供給障害への懸念が高まったことが挙げられます。同日は石油価格の上昇を受けて、石油大手ペトロブラスが前週末比+4.5%と大幅高となりました。

また、同日は国際商品相場が全般的に堅調で、代表的指標であるCRB指数は前週末比+2.08%、金属価格は銅+1.6%、亜鉛+1.5%、農産物価格も砂糖+4.4%、小麦+2.3%、大豆+1.4%となっています。

資源価格が堅調となり、鉄鋼需要が回復するとの思惑が出てくる中で、素材大手ヴァリ(リオドセ)も前週末比+6.3%と大幅高となりました。また、ゲルダウ(前週末比+8.5%)、CSN(同+6.2%)など鉄鋼株も大きく上げています。

インド、中国で甘味料の購入が増大するとの思惑から、砂糖精製大手コーサンが前週末比+6.5%、同じくサン・マルチーニョが同+4.1%と大幅高となりました。世界最大の消費国であるインドでは、砂糖精製業者が粗糖輸入を再開する可能性を指摘しており、18日(月)には砂糖相場が大幅高となっています。

### 3) 追加利下げ観測

予想インフレ率が低下する中で、市場関係者がより大幅な追加利下げを見込んでいることも、ブラジル株式市場上昇の背景の一つとなっています。ブラジル中央銀行による市場関係者の調査によれば、2009年末の政策金利(Selic)予想は9.0%となっており、1週間前の9.17%から低下しています。現行の10.25%から年末までに計1.25%の利下げが見込まれていることとなります。その背景には、インフレ率の低下があり、4月のIPCA(拡大消費者物価指数)は、前年同月比+5.53%と前月の+5.61%から低下、+6.41%をつけた昨年10月から低下基調が続いています。また、市場の予想インフレ率も低下しており、同調査による12ヵ月後のIPCAの予想水準は、+4.03%と1週間前の+4.08%、4週間前の+4.18%から低下するとともに、ブラジル中銀の設定する目標中央値である+4.50%を下回っています。

### 注目されるブラジル株式市場

ここに来て、世界経済は最悪期を脱したとの見方が広がり、市場センチメントに改善が見られます。投資家のリスク回避志向が後退する中で、新興国株式市場の中では、経済ファンダメンタルズ(基礎的諸条件)の比較的良好なブラジルへの投資が見直されつつあります。実際、ブラジル株式市場は、年初来、ボブスパ指数が+37.1%と順調に上昇しており、新興国市場の中でも最もパフォーマンスの高い市場の一つとなっています。

ブラジルは、アジア諸国と比べ輸出依存度が低く、基礎的財政収支・貿易収支はともに黒字基調を維持、2007年末には純債権国となり、さらに銀行は比較的健全性を維持しているなどの点で注目されます。また、政府は340億リアル規模の大型住宅建設プロジェクトを打ち出しており、2011年までに低所得者向け住宅100万户を建設する予定です。さらに政府は、自動車に対する工業製品税の減税措置を3月末から6月末へと3ヶ月延長することを決定、その効果が既に自動車販売の伸びに表れています。4月には白物家電(冷蔵庫、洗濯機など)、一部建築資材も減税対象に加えられており、その効果も見込まれます。また、ブラジル中銀も、1月、3月、4月の各々1.0%、1.5%、1.0%の利下げに加えて、6月、7月の金融政策委員会でも計0.75%程度の利下げを行うことが見込まれます。世界的な金融市場の安定化、世界経済の先行きに対する悲観ムードの後退に加えて、これら国内要因がブラジル株式市場に追い風になるものと期待されます。

以上

## ＜関連するファンドに関わる事項＞

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価値が変動します。従ってお客様のご投資された金額を下回ることもあります。又、投資信託は、個別の投資信託毎にリスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては「投資信託説明書(交付目論見書)」を良くご覧下さい。

お客様には投資信託のご購入にあたり、以下の費用をご負担いただきます。

○申し込み時に直接ご負担いただく費用

－ 申込手数料 上限 3.675%(税込)\*

○換金時に直接ご負担いただく費用

－ 信託財産留保額 上限 0.5%\*

○投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用

－ 信託報酬 上限年 2.1%(税込)\*

○その他費用の詳細は各々の投資信託の「投資信託説明書(交付目論見書)」をご確認下さい。

\*費用の料率につきましては、HSBC 投信が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係る費用はそれぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前に良く「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧下さい。

HSBC 投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 308 号

(社)投資信託協会会員/(社)日本証券投資顧問業協会会員

## 当資料のお取り扱いにおけるご注意

当資料は、HSBC投信株式会社(以下、当社と言います)が情報提供を行う目的で作成したものであり、特定の投資信託等の売買を推奨・勧誘するものではありません。当資料は法令に基づく開示書類ではありません。当資料は信頼できると考えられる情報をもとに作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。当資料に記載された市場の見通し等は作成時点での当社の見解であり、今後予告なしに変更されることがあります。また、当資料に記載された当社の見解等は、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。